

青少年活動センターのページ

動きだした『ひきこもり地域支援センター』

「子ども・若者総合支援」の3年間と「ひきこもり地域支援センター」の位置付け

京都市が、京都市ユースサービス協会運営の中京青少年活動センター（中京）と教育相談総合センター（こどもパトナ）に「京都市子ども・若者総合相談窓口」を設け3年がたちました。窓口寄せられた相談は計1,154件（中京912件、こどもパトナ242件）。「家を出ること」「人とかかわること」「働くこと」「学校に行くこと」など、さまざまな相談の中身を詳しく聞いたうえで、適切な支援機関の紹介や助言を行って来ました。

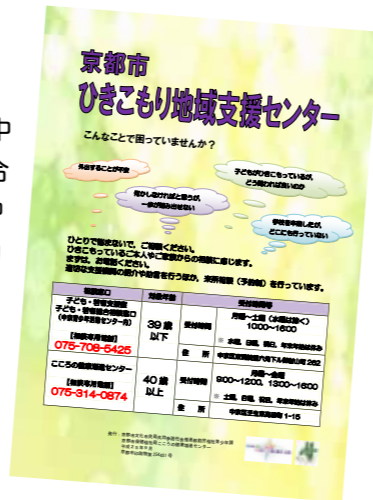
相談内容は開設当初より「ひきこもり」が最も多く、3年間で313件、全体の相談の27.1%でした（中京は30.2%）。さらに、支援コーディネーターが継続的、総合的な支援に携わったケースは117件あり、そのうち52.1%がひきこもり状態の子ども・若者の支援でした。

この現状を受け、2013年10月1日より、子ども・若者支援室と中京青少年活動センター内の子ども・若者総合相談窓口は、こころの健康増進センターとともに厚生労働省が推進する「ひきこもり地域支援センター」として新たに位置づけられました。専用の相談電話を設置し、従来通り30代までの方を対象に、適切な支援機関の紹介や助言、継続的な支援を行うとともに、関係機関との連携を強化し、さらなる支援に取り組んでいます。

ひきこもり支援に向けて～ピアサポーター養成・派遣事業への取り組み～

子ども・若者支援室では、支援を必要とする本人や家族にとって、よりよいサポート体制をつくるため、多様な支援機関と連携を取り、適切な資源と繋がることのできるよう支援のコーディネートを行っています。そして、ひきこもり支援では、若者の心情理解に努めながら、時間をかけて本人や家族との信頼関係を築くことから始めています。

その中で「ピアサポーター養成・派遣事業」の新たな支援に向けた動きも始めています。養成プログラムとは、ひきこもり状態の本人を“当事者の立場で理解できる”若者＝仲間（ピアサポーター）を養成しようとしてNPO法人京都オレンジの会、NPO法人恒河沙母親の会の協力を得て実施しました。プログラム参加者は2団体に所属し、ひきこもり経験のある20代から40代の16人です。9月～11月のプログラムに参加し、「ピアサポートとは」「お互いを尊重し、支え合うこと」「しんどくならないために」などのテーマで講師を迎え、講義やグループワークなどの研修を受けました。修了証を受けた参加者は京都市の“ピアサポーター”として登録され、本格的な活動に向けて動き出します。



相談窓口	相談時間	受付時間
子ども・若者総合相談窓口 (中京青少年活動センター内)	9時～18時	9時～18時
こころの健康増進センター (中京青少年活動センター内)	9時～18時	9時～18時

子ども・若者支援室の新たな取り組み

ひきこもり支援の展開



ひきこもり相談のなかには「外出したいができない」方や、「外出はできるが、人との接触を避けている」方もいます。

ひきこもり支援の開始時に本人と出会うことが困難な場合も多く、家族等の相談から開始し、手紙やメールも利用しながら、本人と出会う関わりを探ります。本人の同意があれば、支援コーディネーターが訪問することもあります。訪問時には、本人や家族との面接だけでなく、一緒にゲームをしたり、DVDを見たりといった時間を共有することを大切にしています。本人の希望を丁寧に聴き取り、人との関わりを経験を増やしたい方には居場所活動等の紹介を行います。就労に向けた段階では、就労準備につながるプログラムや機関を紹介します。心身の不調や自身の特性をはっきりさせたい方には、医療や保健福祉に関する機関を紹介する等、本人に寄り添いながら支援を展開しています。

ひきこもり相談の事例

30歳のAさんは、高校卒業後に就職し、半年で辞めてから10年近く自宅でひきこもり。母親が困り果て、相談窓口で電話をされました。相談窓口では継続的な支援が必要と判断し、支援室のコーディネーターに引き継ぎました。母親の説得で来館したAさん。徐々に慣れてきて「仕事できたらいいけど、人間関係が苦手やし、やれる自信はない」といった発言があり、課題もはつき

りしてきます。人との関わりに慣れていきたいAさんは、グループの活動に参加したり、就労体験のプログラムを利用し、最後までやりきりました。そして、就労支援機関と連携しながら就労に向けて動いていたAさんは、ハローワークでの紹介を経て、清掃の仕事に見事合格し、しんどい思いを経験しながらも、前向きにしっかりと働くようになりました。

講演会と交流会

「ひきこもり・不登校 ～家族や周りの人たちができること～」

講演会とNPO等民間団体との交流会を中京青少年活動センター大会議室で開催します。講師には、立命館大学大学院教授の高垣忠一郎氏をお招きし、ひきこもりや不登校の若者に対する理解や望ましい接し方などについてお話をさせていただきます。

交流会では、若者の社会参加を支援している団体による活動紹介を通じ、参加者と参加団体が繋がりを持つ機会になることを願っています。ひきこもり・不登校に悩むご本人やご家族、支援者や関心をお持ちの方、若者の社会参加について何ができるのか一緒に考えてみましょう。

12月7日(土) 14:00～17:00

■申込・問合せ：京都市ユースサービス協会 子ども・若者支援室
■075-708-5430 (参加無料)